

# 第 13 回

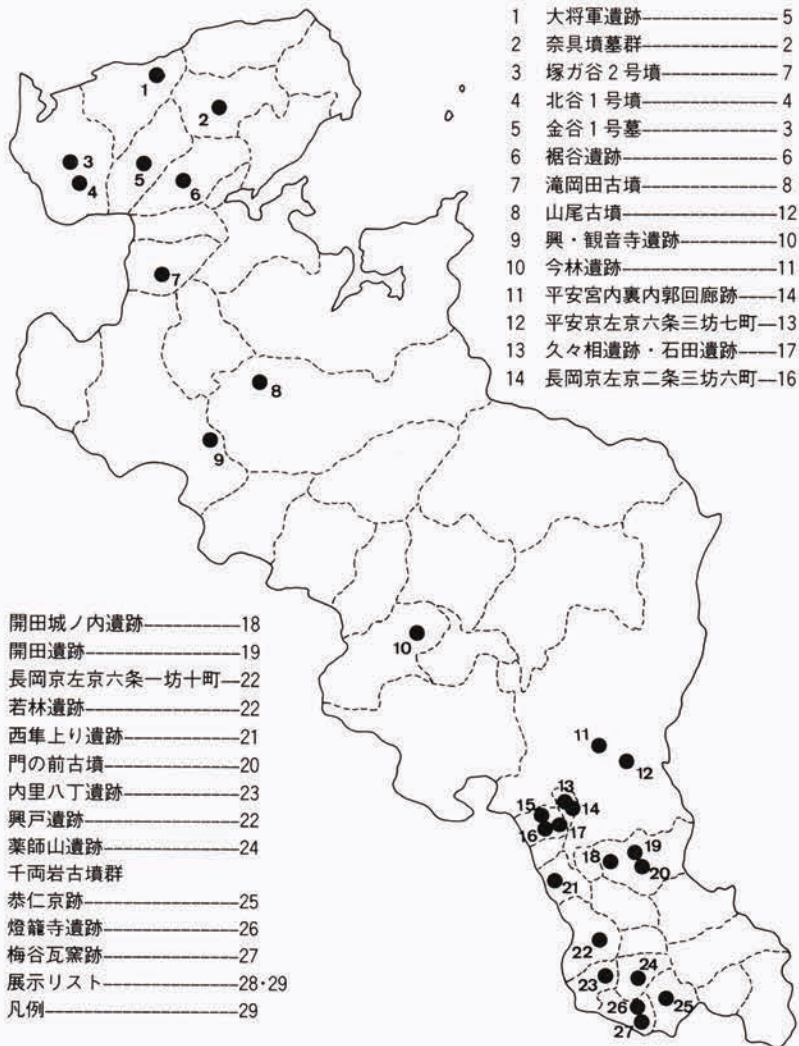
# 小さな展覧会

1995. 8. 12~8. 27

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



# 目次



遺跡名	頁
展示会開催にあたって	1
1 大將軍遺跡	5
2 奈具墳墓群	2
3 塚方谷2号墳	7
4 北谷1号墳	4
5 金谷1号墓	3
6 裾谷遺跡	6
7 滝岡田古墳	8・9
8 山尾古墳	12
9 興・観音寺遺跡	10
10 今林遺跡	11
11 平安宮内裏内郭回廊跡	14
12 平安京左京六条三坊七町	13
13 久々相遺跡・石田遺跡	17・15
14 長岡京左京二条三坊六町	16

15 開田城ノ内遺跡	18
16 開田遺跡	19
17 長岡京左京六条一坊十町	22
18 若林遺跡	22
19 西車上り遺跡	21
20 門の前古墳	20
21 内里八丁遺跡	23
22 興戸遺跡	22
23 葉師山遺跡	24
24 千両岩古墳群	
25 恭仁京跡	25
26 燈籠寺遺跡	26
27 梅谷瓦窯跡	27
展示リスト	28・29
凡例	29

## 展覧会開催にあたって

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、1994年度に48件の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、そのうち注目された遺跡を11件とりあげ、京都府内の各関係諸機関の発掘成果18件と合わせて展示しております。

この展覧会の目的は、冒頭で述べましたように、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果や出土遺物を広く一般の方々に紹介し、併せて埋蔵文化財への理解を深めていただくことにありますが、そのためにも、皆様によりわかりやすく親しみやすい展示を心がけていくつもりであります。

今回の展覧会に後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろな御協力を賜った各関係諸機関に対しまして、深く感謝申し上げます。

1995年 8 月

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 樋 口 隆 康

なぐ  
奈具墳墓群

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

紀元前後

弥栄町溝谷・奈具



▲三基が縦列に並ぶ



◀壺棺

### 玉造り集団の共同墓地か

竹野川流域右岸丘陵上にひろがる遺跡で、居住域(奈具岡遺跡)、生産域(奈具谷遺跡)とともに墓域(奈具墳墓群)が明らかになり、当時の奈具の集団の生活空間の復原が可能になった。この墳丘墓はさらに時代を経て南側の丘陵に移動して、4世紀後半には壺棺を伴った古墳が築かれた。



かなや  
金谷1号墓

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

3世紀  
峰山町鱒留

## 古墳時代への胎動

中央の墓壙を取り巻くように17基の大小様々な埋葬施設が構築された大形独立墳丘墓である。埋葬施設内から豊富な玉類や鉄製品が多数出土し、墳頂部から墓上祭祀に用いられた多様な土器類が確認された。

当時の在地有力被葬者と、それを取り囲む殉葬者の共同墓地とも言える様相を示している。

▲空からみた金谷1号墓

▼祭祀用の土器類



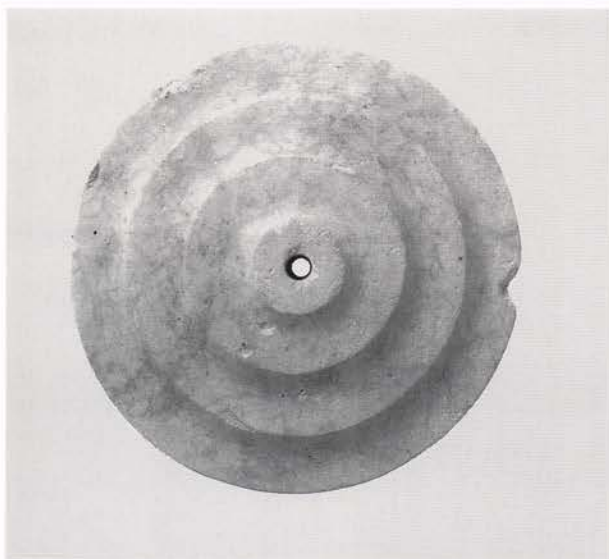




▲丘陵先端部に築かれた楕円形墳

### 在地有力者のお墓

組み合せ式木棺を内部主体とする佐濃谷川流域では最大級の古墳である。出土した碧玉製紡錘車形石製品は、大型管玉状石製品などと玉杖の把部を構成する飾り部品で、首長の権威を示す遺物の一つとして貴重である。



▲碧玉製紡錘車形石製品



墓上祭祀用土器の出土▶



だいじょうご  
大將軍遺跡

(網野町教育委員会)

4世紀

網野町網野字大將軍



▲土坑内に散乱する埴輪類

### 謎めいた埴輪のゴミ捨て場

日本海側最大の前方後円墳である網野銚子山古墳の北東約200mに位置する弥生時代後期から中世までの複合集落遺跡から、埴輪を投棄した2.3m×2mの土坑が発見された。埴輪中、普通円筒埴輪のほかに、貴人にさしかけた傘を模倣した蓋形埴輪も含まれ、直線と円弧からなる直弧文を描いた埴輪片もある。共伴土器から年代も推定できる。今のところ、埴輪工房の存在が想定されている。



▲角度をかえてみた埴輪類

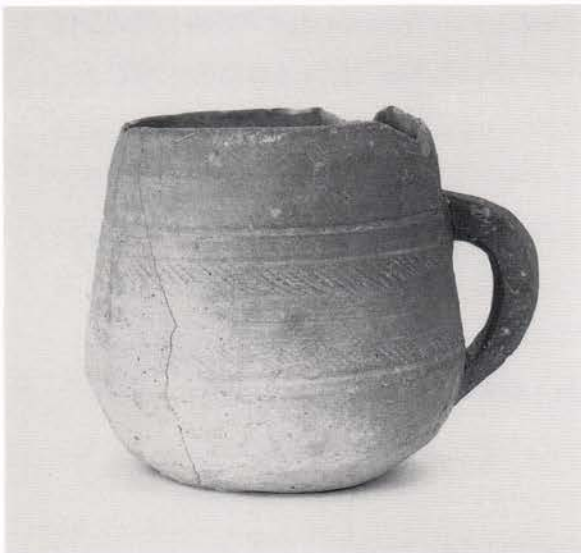


▲壮観な住居跡群

### 山の斜面を利用した住宅団地

斜面地に築かれた家々は、古今東西をとわず広く世界中に見られるが、京都府北～中部域でも最近発見が続出している。

竪穴式住居跡と掘立柱建物跡からなり、鍛冶工房跡もあることから、時期差のみならず用途の違いもあるようである。また、焼骨を埋納した小横穴も発見された。全国的にも大変珍しい遺構である。



◀酒宴用コップ?

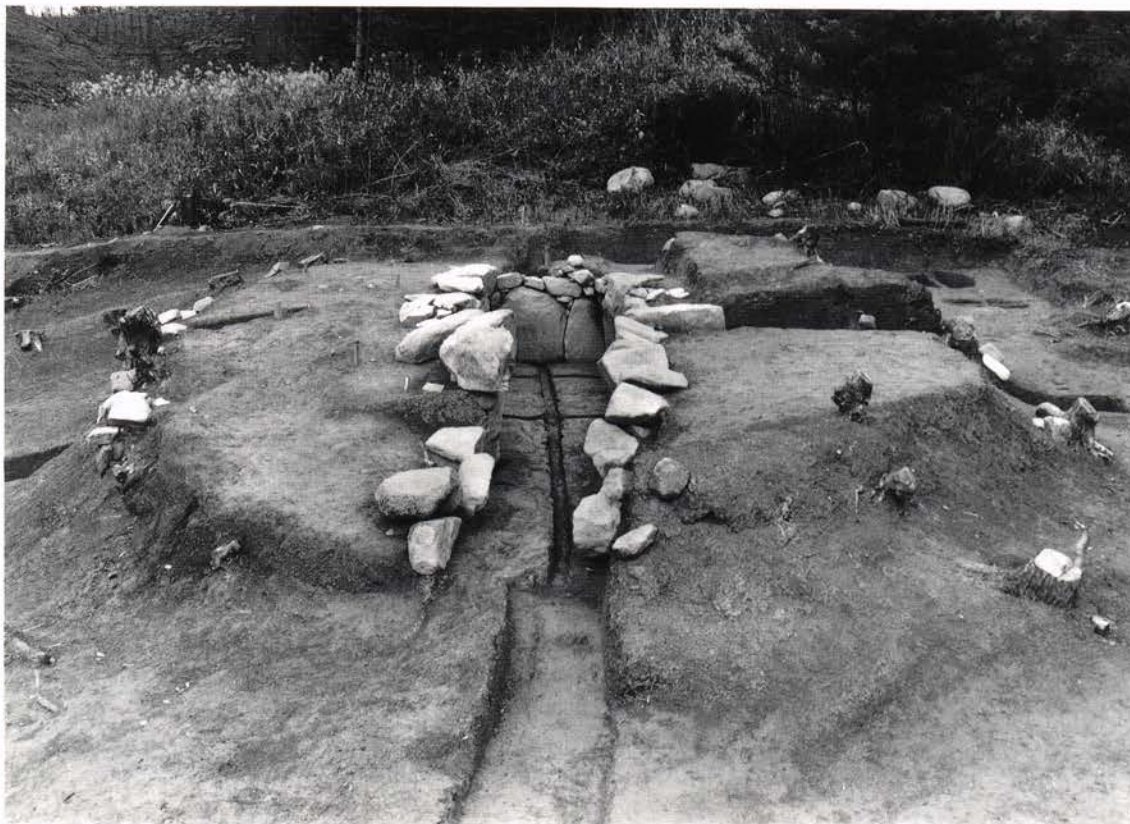


つかがたに  
塚ガ谷2号墳

(久美浜町教育委員会)

6～7世紀

久美浜町女布



▲調査の最終段階での全景

### 列石を巡らした石室墳

全長8.1mの右片袖式の横穴式石室を内部主体とする、佐濃谷川流域在住の有力者の中でもランクの高い人物の古墳で、墳丘は円形である。石室内はすでに攪乱を受けていたため、遺物の配列などから被葬者数や性格が十分に究明できないのは残念である。



◀攪乱されて飛び散った土器片





▲古墳を空から見る



### 飛鳥朝廷と古墳

加悦谷の最奥部、加悦谷を一望できる景勝の地に築かれた、典型的な畿内型の右片袖式の横穴式石室墳である。石室内からは豊富な土器・鉄製品・馬具類と共に、中央政権から下賜されたであろう金銅装大刀が出土した。当時の与謝郡一円の支配を中央政府から委譲された被葬者が想像できる。

石室は鎌倉時代にも宗教的儀礼に再利用されたのであろうか、中世の土器が一括して出土した。

◀大形礫を玄室内に敷きつめている





▲副葬品として石室内に埋葬されていた多種多様な須恵器類



◀下賜された  
金銅装大刀



▲鎌倉時代の日常什器



おき かん のん じ  
**興・観音寺遺跡**

(福知山市教育委員会)

1世紀

福知山市興・観音寺



▲垂直空中撮影

### 大規模な農村の暮らし

近畿地方北部最大の由良川中流域南岸に広がった拠点集落跡である。7回にも及ぶ発掘調査が実施され、竪穴式住居跡、墓、土坑や区画用などの溝が数多く見つかった。多様な壺・甕などの日常什器類に混じって、当時の祭祀に利用された石剣や石棒も出土しており、他の地域との交流を活発に行っている村の人々の生活の様子が目にうかぶようである。



最大級の壺の口縁部▶



いまばやし  
今林遺跡

(財)京都市埋蔵文化財調査研究センター)

2・3世紀～6世紀  
園部町内林町字今林



▲稜線上に展開する住居跡と今林2号墳



▲器台(須恵器)出土状況

### 大小の住居と豊富な須恵器

丘陵稜線上に大形の円形住居を構え、その斜面に中形の住居を配した集落で、古墳時代前期まで営まれていた。その間他地域との交易も行われ、その影響を土器に反映している。

後世、丘陵先端部に在地有力者の古墳が築造された。主体部は切り合う2基の木棺墓で、多種多様な須恵器のほか、大刀・鉄鎌・鉄製楕円形鏡板付轡と呼ばれる馬具の一種も出土した。





▲宝塔を模倣したかのような古墳

### 一郡を治めた豪族の墓

「J」字状テラスに皿状の基壇状石積みを設けた古墳は、当時は限定された範囲の人々のみが築造を許されたものであった。被葬者は自ずと飛鳥の中央政権と密接な関係にあった豪族の長であったろう。

当時の薄葬思想の影響を強く受け、副葬品としては須恵器(高杯)1点しかなかった。

▼石室全景



▼石室内唯一の出土品



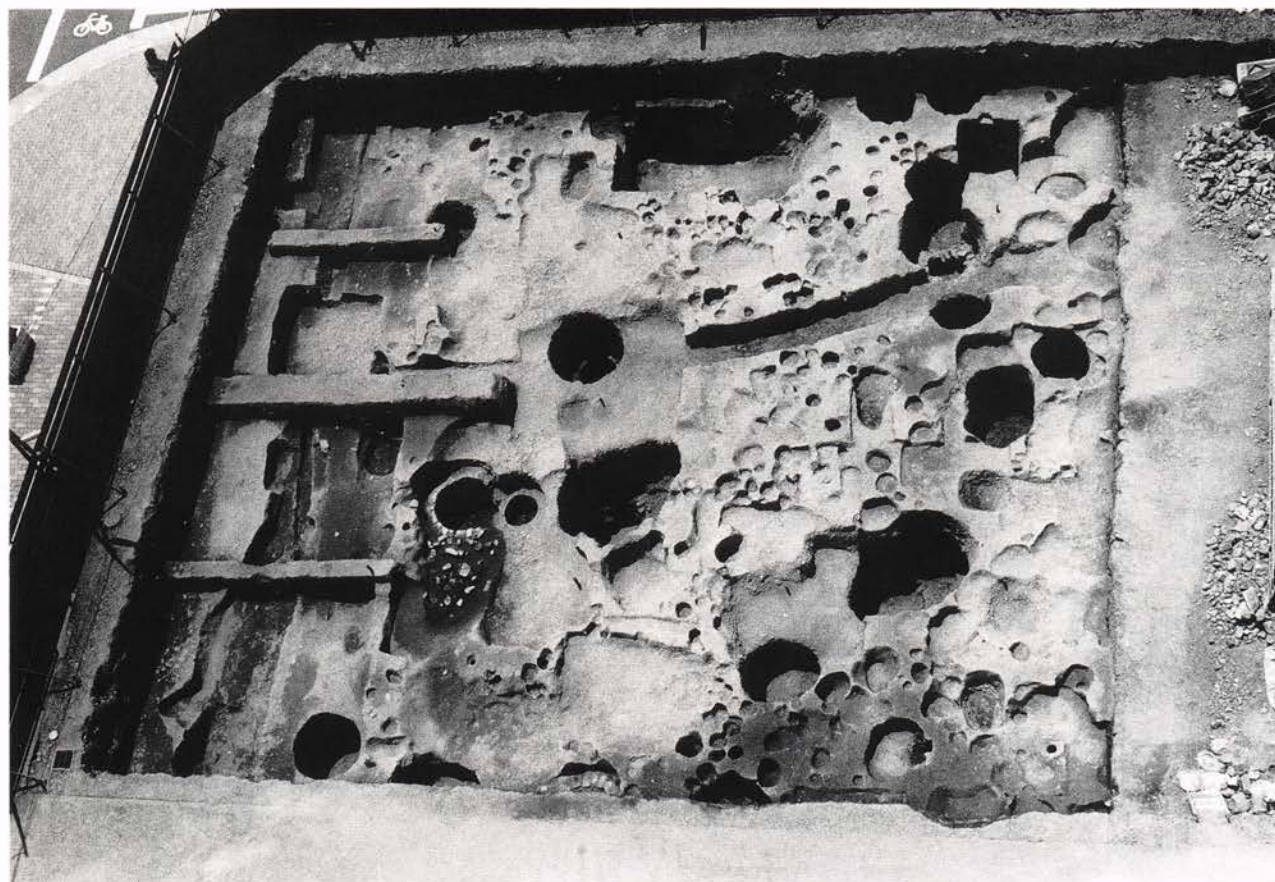


へいあんきょうさきょうろくじょうさんぼうしちちよう  
平安京左京六条三坊七町

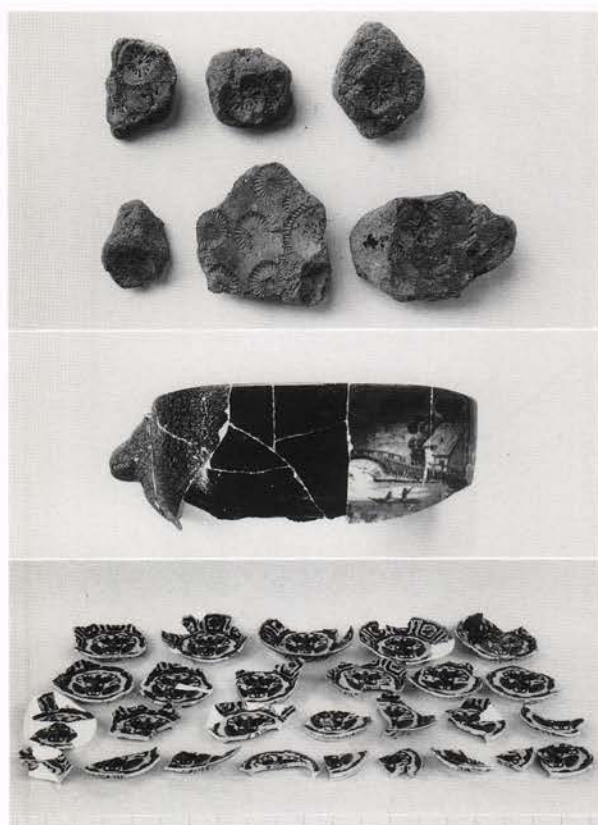
(京都府京都文化博物館)

8世紀～19世紀

京都市下京区小田原町他



▲複雑に重複する各時代の遺構



### 多彩な輸入陶磁器

わずかな面積の調査地から、六条坊門小路の路面北側溝・井戸・溝・柱穴など平安時代以降の各時代の遺構が約1000件見つかった。出土遺物も多量で、輸入陶磁器を中心とした安土・桃山時代から江戸時代前期にかけての陶磁器に見るべきものがある。また室町時代後半～安土・桃山期の土坑から鏡の鑄型破片が出土し、埴塙や屏風・羽口などもあり、鑄造関係資料としても注目される。

◀鏡の鑄型  
イギリス陶器  
セット購入された磁器



へいあんきゅうだいにいなくかいろう

平安宮内裏内郭回廊跡 (財京都市埋蔵文化財研究所)

8世紀～10世紀

京都市上京区下立売千本

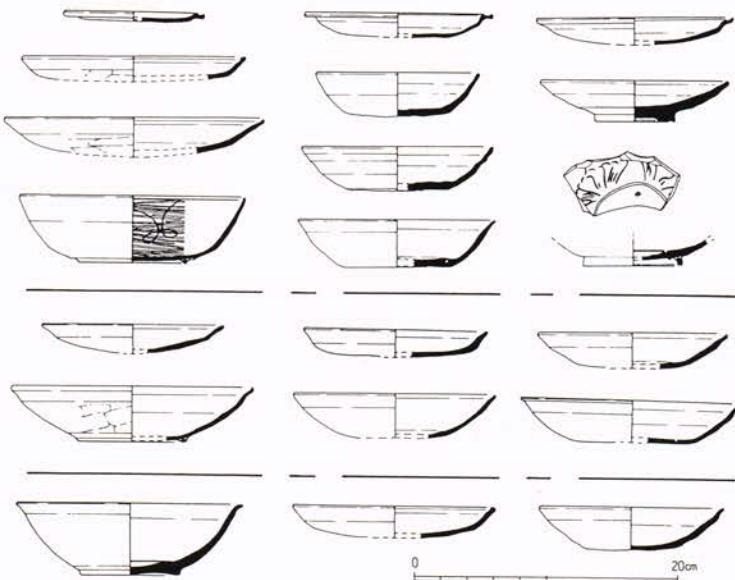
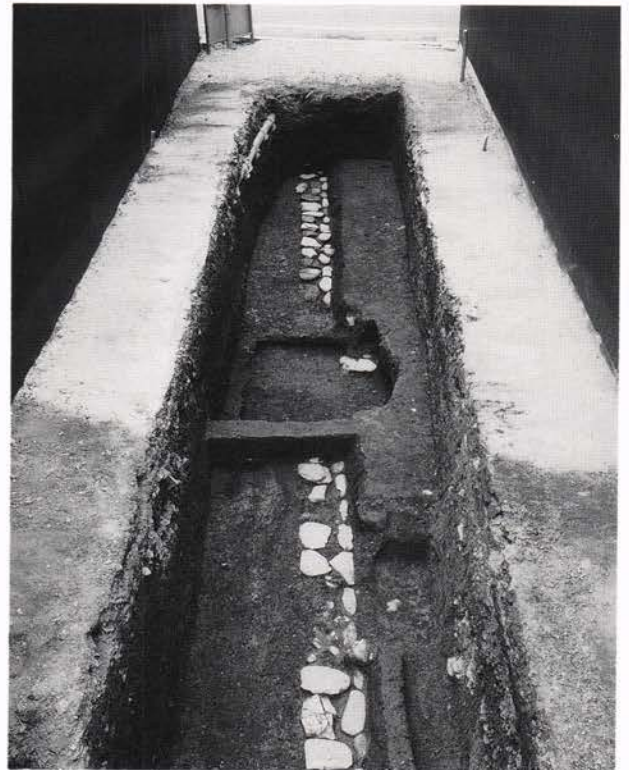
最高水準の技術を駆使した回廊

天皇がすまいした荘厳を極めた内裏の内郭回廊の基礎に二上山産凝灰岩を地覆石として用い、大形の河原石で雨落溝を構築していた。雨落溝は丁寧に清掃され、いつも水が南流していたようである。しかし半世紀後には早くも修築が行われたこともわかり、歴史の盛衰を顕著に見てとれる。



◀ 築造時の回廊

▼ 修築後の回廊



▲ 焼土層・基壇盛土・雨落溝出土土器



いしだ  
石田遺跡(財)向日市埋蔵文化財センター)  
長岡京跡左京第327・342次前5世紀  
向日市鶏冠井町

▲縄文時代のくらしが発見された石田遺跡

## 縄文時代の石器工房

石田遺跡は、乙訓地域でも有名な縄文時代から弥生時代にわたる集落遺跡である。過去の発掘調査でも集落に関係した人々のくらしの跡が発見されてきている。

昨年度の調査では、ムラの中に営まれた土器を利用した墓が見つかったが、そのほかに網につける石の重り(石錘)や石のやじり、石器を作る材料となる石材(石核)などがたくさん出土している。

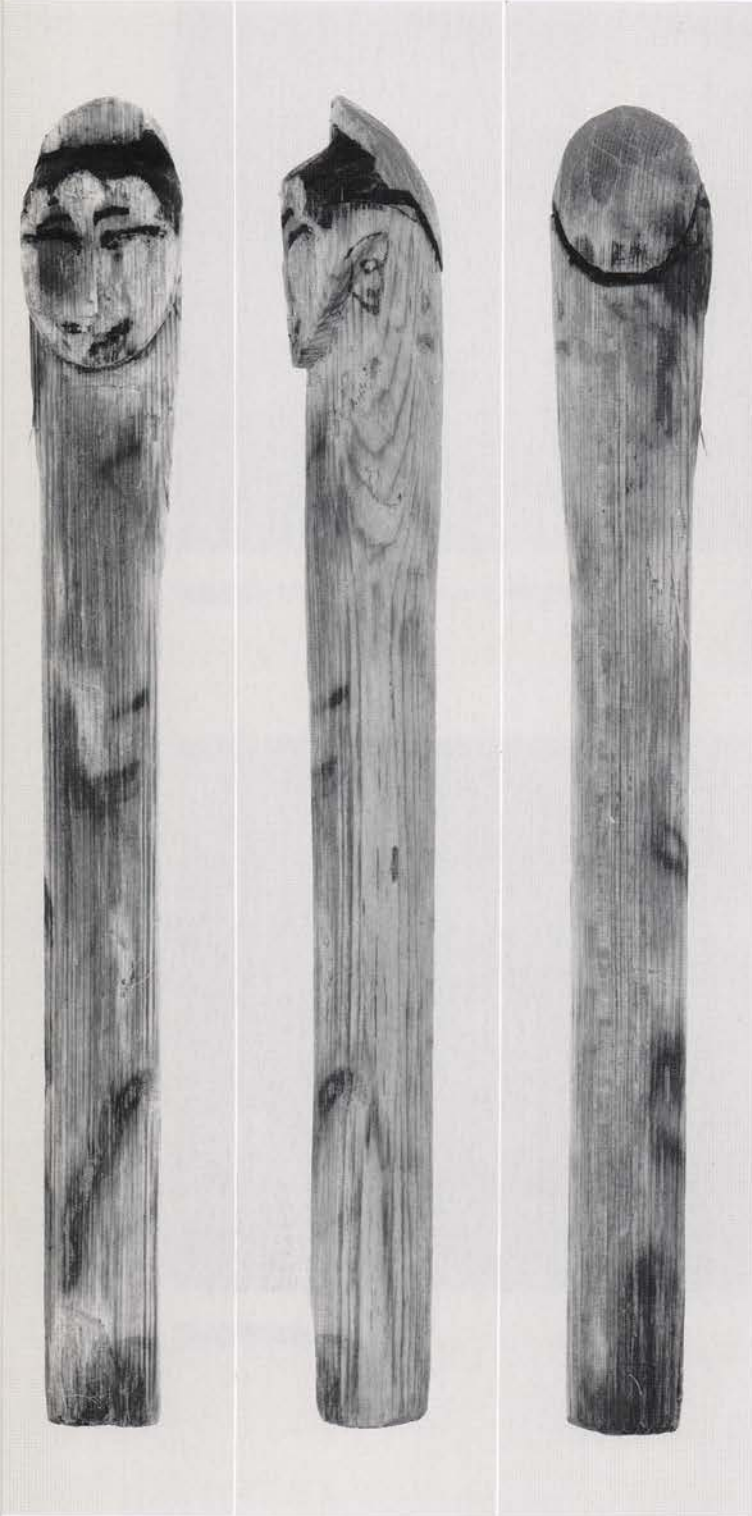
これまで、よくわからなかった縄文時代の人々の生活の跡を具体的に知ることができる貴重な発見である。



▲縄文時代の墓



▼人の頭部を写實的に現した人形



▲貴族の邸宅を区画する溝

### 長岡京の貴族の邸宅

長岡京跡左京二条三坊六町にあたる今回の調査地では、1町もしくはそれ以上の宅地を有していたと思える身分の高い貴族の邸宅跡が見つかった。

この邸宅の北を通る二条条間大路の南側溝からは、邸宅から捨てられたと思われるなれ鮓、兎の干し肉を記した木簡や食器類のほか、立体的な人形や、齋串、墨書人面土器といった、まじないやおいのりに使った遺物もたくさん出土した。特に、人の頭部が立体的に掘り出された人形は、これまでに例のない珍しいものである。



くぐそ  
久々相遺跡

(財)向日市埋蔵文化財センター

9世紀

向日市久々相



▲長岡京跡の北側に広がる古代の遺跡・久々相遺跡

長岡京の外方に広がる遺跡

今回、JR向日町駅の北側で、奈良時代から平安時代を中心とする生活の痕跡が多数見つかった。奈良時代では有力者の居住地と思える掘立柱建物や柵、塀など、長岡京期では都と関係する離宮や菜園ではないかと推定される建物、畑の跡などが発見されている。

また、平安時代では、土器を多量に納めた柱穴が見つかり、建物を廃棄するときに行った地鎮のまつりの跡ではないかと考えられている。



▲平安時代の土器を納めた穴





▲土器棺の出土状況

### 縄文時代の土器棺墓

現在の阪急・長岡天神駅の西方に広がる開田城ノ内遺跡は、これまでから、弥生時代～奈良時代におよぶ集落遺跡として有名であった。

今回、この遺跡から初めて縄文時代の遺構が検出された。それは、縄文時代でも終りの頃、晩期と呼ばれる時期の土器を棺に使った墓の跡である。土器棺墓は、集落のはずれであったと思われる丘陵が谷に向かって落ちて行くあたりに2基並んで築かれていた。

棺に使われた土器は、縄文時代晩期の深鉢と呼ばれる種類の土器で、貯蔵や煮炊き用に使われていたものを再利用したものである。



▲縄文時代の土器棺



かいでん  
開田遺跡

(財)長岡京市埋蔵文化財センター)

長岡京跡右京第479次

1～14世紀

長岡京市開田4丁目

### 長期間続いた遺跡

今回、調査された開田遺跡の位置は、長岡京では右京七条二坊八町に相当する。発掘によっても、長岡京期の建物などが検出された。

ところで、この開田遺跡では、長岡京期以外の縄文時代から近世におよぶ長期間の遺物や遺構が発見されている。縄文時代は土器だけであったが、弥生、古墳時代から長岡京期を経て中・近世へと続く各時代の遺構は、各時代の土地利用の変遷を明らかにすると共に、当時の人々の生活の実態を知ることができる貴重な発見となった。



▲長期間人々が暮らした開田遺跡

### ▼各時代の土器







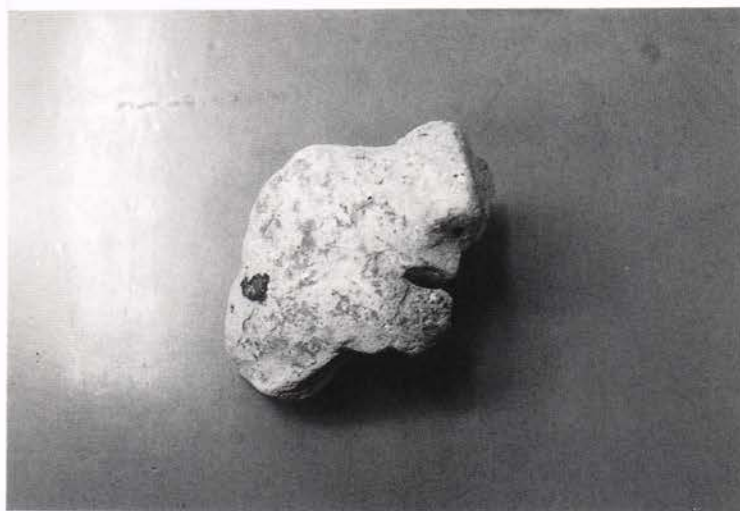
▲新たに発見された前方後円墳・門ノ前古墳

### 破壊された前方後円墳

宇治市の三室戸寺付近に広がる菟道遺跡を発掘調査していたところ、基底部まで削り取られた前方後円墳の痕跡が発見された。測量の結果、全長35m、後円部径20m、前方部幅20mで、周囲に溝を巡らした堂々たる前方後円墳であることが確認された。出土した遺物は溝に転落していた埴輪が大半であったが、円筒埴輪のほかに人物や馬、鳥、盾、大刀などを形造った形象埴輪が多数出土している。

埴輪などの年代から6世紀の中頃に築かれた古墳と考えられるが、付近に所在する5世紀の宇治を代表する二子山古墳に続く古墳として注目される。

▼溝から出土した人物や馬形の埴輪





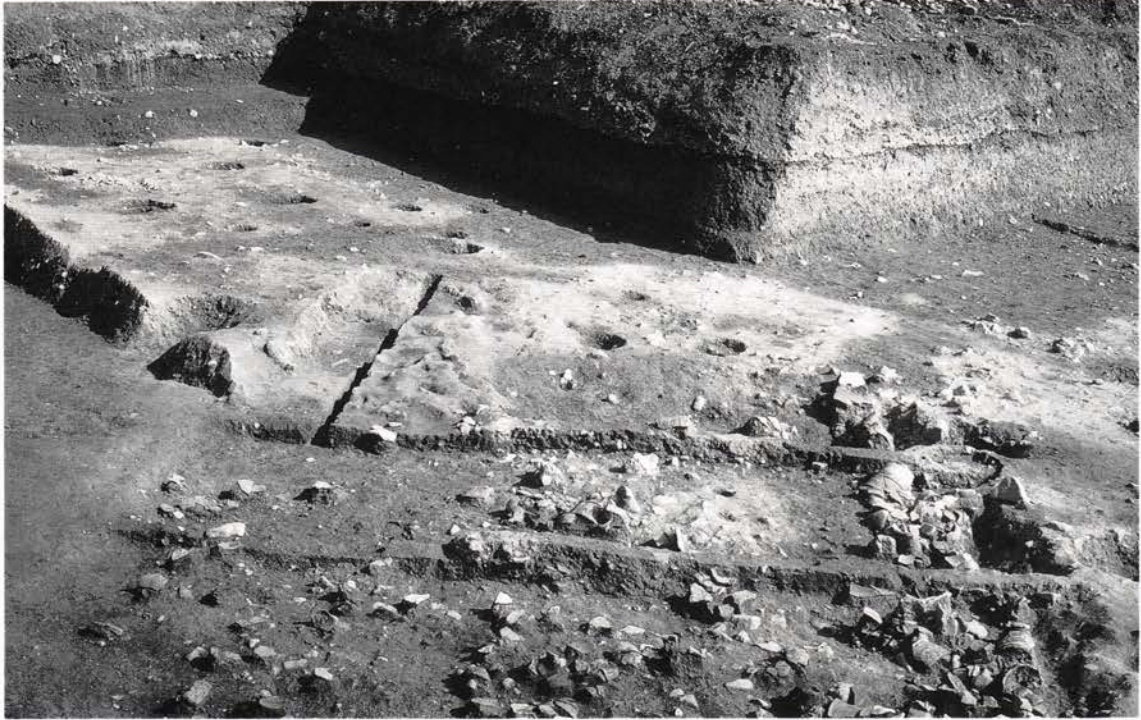
にしはやあが

## 西隼上り遺跡

(宇治市教育委員会)

6世紀

宇治市菟道



▲須恵器と埴輪と一緒に出土した西隼上りの窯跡と作業場

## 年代のわかる埴輪窯

宇治市菟道の西隼上り遺跡で、宇治市では、初めての埴輪を生産する窯跡が発見された。埴輪窯は、小規模な半地下式の登り窯と呼ばれる構造で、出土した埴輪も円筒形のほかに馬や盾形の形象埴輪が含まれるが、量は比較的少なかった。

しかし、この埴輪窯で注目されるのは、埴輪と一緒に、窯を営んでいた工人たちが使っていた容器である5世紀末～6世紀初頭の須恵器が出土したことである。

これまで、埴輪の生産場所で当時の年代を決める物差しになる土器と一緒に出土する例は、あまりなく、今回の発見は、埴輪の年代を決定する上で、貴重な資料となった。



▲同じ遺構から出土した埴輪と須恵器





豪華な玉類(宇治市若林遺跡、6世紀)

集落の近くに営まれた小さな土壙墓から出土した古墳も顔負けのたくさんの玉。

千両岩古墳群(山城町上狛、6世紀)

高麗寺を建立した狛氏の奥ツ城か？



漆紙文書

(長岡京市長岡京跡、長岡京期)

当時、貴重であった紙に書かれた文書が漆によって封じ込められたもの。



平安時代の双鳥文瑞花五花鏡

(田辺町興戸遺跡、平安時代)

平安時代の有力者が使っていた2羽の鳥を描いた豪華な銅鏡。





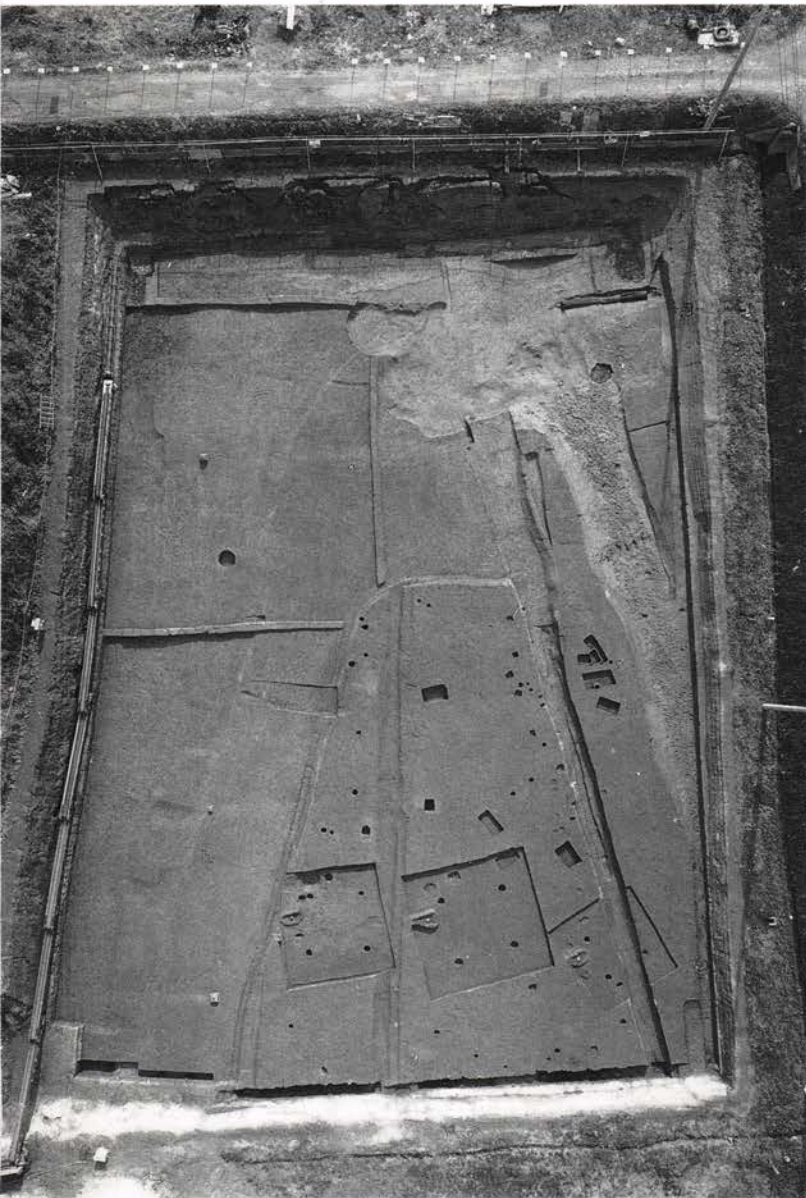
うちさとはっちょう

内里八丁遺跡

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

弥生時代後期～平安時代

八幡市内里八丁他

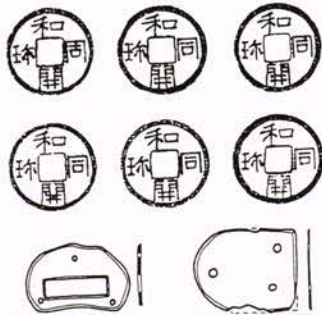


水辺のまつり

旧巨椋池の南辺に広がる弥生時代の水田遺跡として著名な遺跡であるが、昨年度の調査では主に古墳時代の集落跡と奈良時代末～平安時代初期の溝や池状遺構などがみつかった。各家々には東壁にかまどが造られ、珍奇な有孔無頸壺も使用していた。また、後世、水辺の周囲で銅銭・墨書土器・帯飾りのほかに土馬やミニチュアかまどなどを用いて祭祀行為を行っていった。

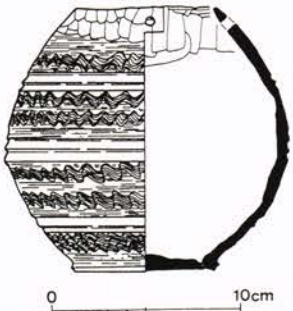
◀調査地全景空中写真

▼ピット内に埋納された土器

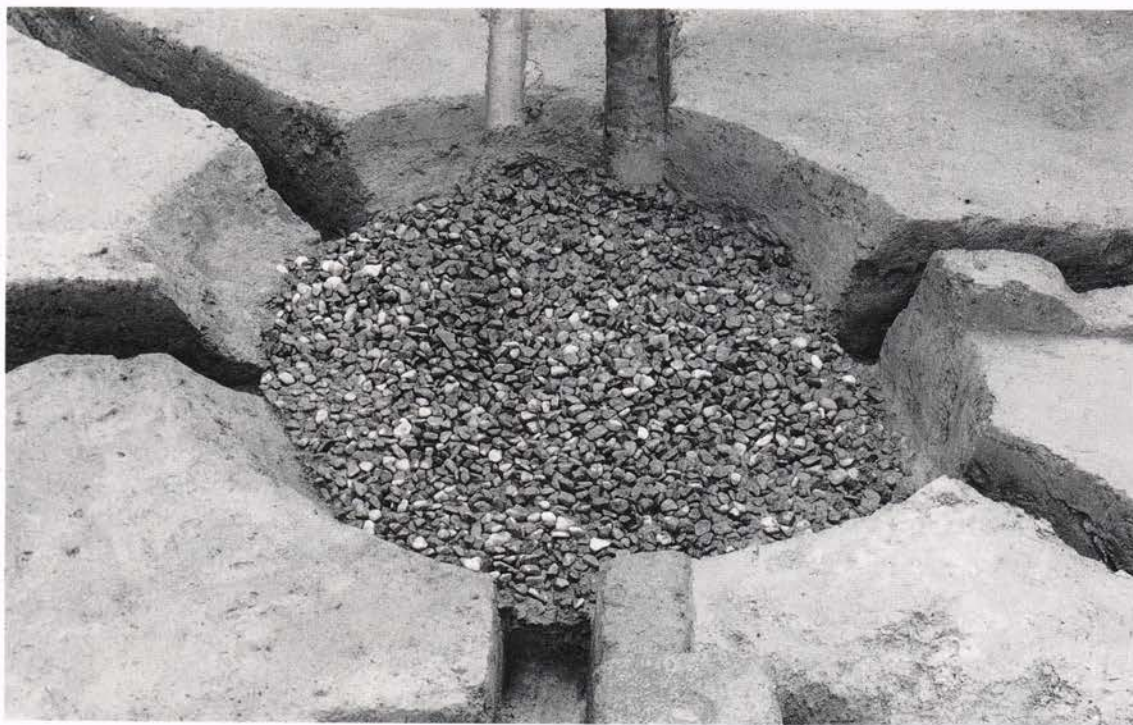


▼類例のない有孔無頸壺

▲和同開珎と帯飾り





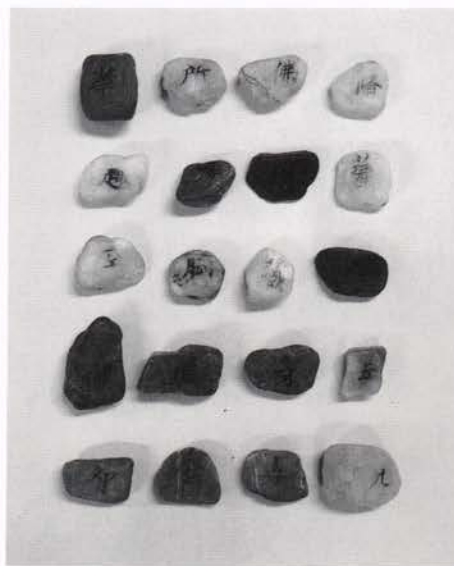


▲一字一石経が大量に納められていた掘り穴

### 一石の経に込められた祈り

精華町薬師山遺跡では、小さな河原石ひとつずつに一字の経を墨書した一字一石経が大量に出土した。一字一石経は、本来の経巻を地中に埋納する経塚の意義が変化したものと考えられているが、南北朝時代以後からこのような埋経が始まったようである。

今回出土した一字一石経は、法華経が一文字ずつ書かれているようだが、どの位の巻数になるのか、数が多すぎて今は想像することもできない。江戸時代でも後期に埋納されたこの一石経に当時の人は、どんな願いを込めたのだろうか。



▲一石に一字ずつ書かれたお経



くにきょう  
**恭仁京跡**

(京都府教育委員会・  
 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

8世紀  
 加茂町例幣



▲恭仁宮の北東角の築地堀跡

### 縮小された都

加茂町に所在する恭仁宮跡は、過去20年以上におよぶ京都府教育委員会などの発掘調査によって徐々にその姿を現しつつある。

近年の調査では、恭仁宮の四周を確認する手掛りが次々に発見されており、宮の範囲・規模が確定されるのも間近になってきている。

しかし、その成果によると、恭仁宮の形は、他の宮のように正方形とはならず、南北に長い長方形で、規模もかなり縮小された姿が浮かび上がりつつある。

恭仁宮の周辺の発掘調査では、恭仁宮の時代ばかりではなく、前後の時代の遺跡も明らかになってきている。昨年は、宮の東方で縄文時代の遺跡が発見された。

▼築地堀に葺かれた瓦





とうろうじ  
**燈籠寺遺跡** (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

前20世紀～13世紀  
木津町木津字宮ノ裏



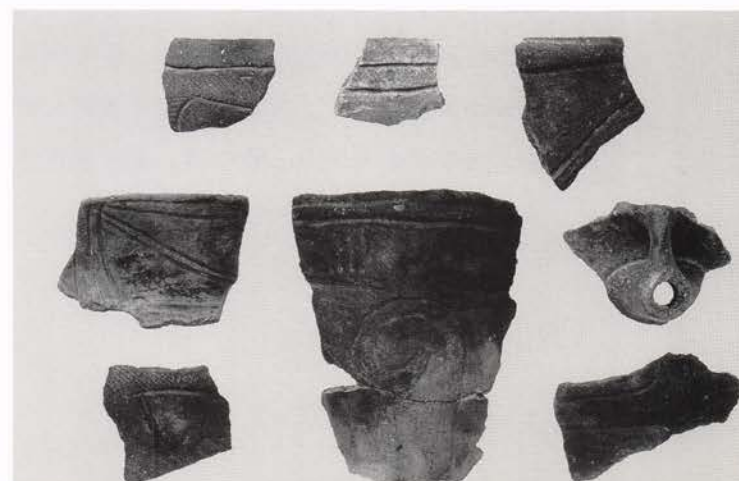
▲調査地全景

軒平瓦▼  
「飛」墨書土器▶

**墨書土器と縄文土器**

別名「燈籠寺廃寺跡」とも呼ばれるほどに遺跡の推定範囲が重複し、その中央には寺院建物の基壇と推定される土壇が今も残っている。その寺域の東限を示す溝や柱穴が、軒瓦や墨書土器・人面土器などとともにみつかった。その下層からは縄文時代後期全般にわたる縄文土器片(中津～宮滝式)が良好な保存状態で出土したことで、近隣に長期間にわたって営まれた拠点集落があったものと思われる。

▼いろいろな縄文土器片





うめだに  
梅谷瓦窯跡

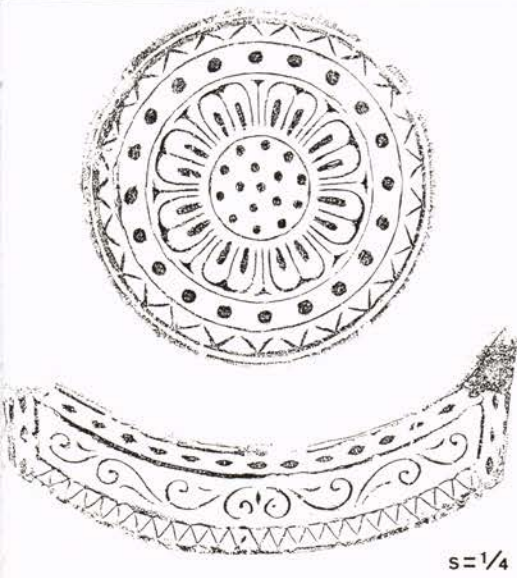
((財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

8世紀  
木津町梅谷



▲全貌を現わした瓦窯跡全景

▲創建瓦



◀創建瓦拓影

興福寺の創建瓦の専用瓦窯

権勢をふるった藤原一族の氏寺である興福寺は、藤原不比等によって建立され、南都七大寺の一つに数えられている。その創建時に堂宇の屋根を飾った瓦類を、登り窯5基と平窯2基の計7基でほぼ同時に操業して焼成していた。

瓦窯の構造は、登り窯から新型の平窯への過渡期的な要素を備えており、瓦焼成法の技術的試行錯誤の段階を如実に示している。



◀珍しい水瓶形の灰釉陶器



# 展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
大將軍遺跡	蓋形埴輪	3	4世紀	網野町教育委員会
	円筒埴輪	2	〃	〃
	土師器	4	〃	〃
奈具墳墓群	弥生土器	5	紀元前後	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	石製品	2	〃	〃
奈具古墳群	土師器	1	4世紀	〃
	鉄剣	1	〃	〃
塚ガ谷2号墳	須恵器	6	6～7世紀	久美浜町教育委員会
	耳環	1	〃	〃
北谷1号墳	土師器	4	4世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	碧玉製紡錘車	1	〃	〃
金谷1号墓	弥生土器	6	3世紀	〃
	玉類	一括	〃	〃
樞谷遺跡	須恵器	5	7～8世紀	〃
	土師器	4	〃	〃
	牛形土製品	1	〃	〃
滝岡田古墳	須恵器	10	6～7世紀	加悦町教育委員会
	土師器	2	〃	〃
	鉄製品	一括	〃	〃
	装身具類	13	〃	〃
	黒色土器	5	12～13世紀	〃
	土師器	3	〃	〃
山尾古墳	須恵器高杯	1	7世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	模型	1		〃
興・観音寺遺跡	弥生土器	6	1世紀	福知山市教育委員会
	石製品類	10	〃	〃
今林遺跡	弥生土器	3	2～3世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	須恵器	6	6世紀	〃
	鉄製品	6	〃	〃
平安宮内裏内郭 回廊跡	土師器	6	8～10世紀	京都市埋蔵文化財研究所
	須恵器	1	〃	〃
	墨書須恵器	1	〃	〃
	黒色土器	1	〃	〃
	緑釉陶器	3	〃	〃
	軒先瓦片	5	〃	〃
	模型	1		〃
平安京左京六条 三坊七町	陶磁器片	一括	16～17世紀	京都府京都文化博物館
	和鏡鑄型片	一括	16世紀	〃
	土師器片	7	〃	〃
開田城ノ内遺跡	甕棺	1	前5世紀	長岡京市埋蔵文化財センター
開田遺跡	弥生土器	1	1世紀	〃
	石器	一括	〃	〃
	須恵器杯	1	8世紀	〃
	土師器杯・甕	3	〃	〃
	土師器皿	10	14世紀	〃
	瓦器椀	5	〃	〃
	瓦質羽釜	1	〃	〃
長岡京跡左京六条一坊十町	漆紙文書	一括	8世紀	〃



遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
若林遺跡	玉類	一括	6世紀	宇治市教育委員会
門ノ前遺跡	人物埴輪	1	〃	〃
	馬形埴輪	1	〃	〃
西牟上り遺跡	須恵器	2	〃	〃
	円筒埴輪	2	〃	〃
石田遺跡	石器	一括	前5世紀	向日市埋蔵文化財センター
長岡京跡左京二	人形	1	8世紀	〃
条三坊六町	土師器	8	〃	〃
	須恵器	10	〃	〃
	緑釉陶器	3	〃	〃
	墨書人面土器	2	〃	〃
	土師器	一括	9世紀	〃
久々相遺跡	須恵器	5	〃	〃
	製塩土器	1	〃	〃
	軒先瓦	2	〃	〃
	土師器	4	5～8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
内里八丁遺跡	須恵器	6	〃	〃
	貨幣	13	8世紀	〃
	帯飾り	2	〃	〃
	双鳥文瑞花五花鏡	1	13世紀	田辺町教育委員会
興戸遺跡	一字一石経	一括	18世紀	精華町教育委員会
薬師山遺跡	軒先瓦	2	8世紀	京都府教育委員会
恭仁京跡	縄文土器片	一括	前10世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
燈籠寺遺跡	縄文土器片	一括	前20世紀	〃
	軒先瓦片	2	7～8世紀	〃
	墨書土器	4	8世紀	〃
梅谷瓦窯跡	軒先瓦	4	〃	〃
	灰釉陶器	1	〃	〃

## 凡 例

1. 本図録は、1995年8月12日～8月27日の第13回「小さな展覧会」の展示図録である。
2. 展示資料は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター及び各機関が主として1994年度に発掘調査を行った遺跡・遺物を対象とした。
3. 資料調査、図録作成、展示資料借用にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を受けた。  
(順不同・敬称略) 久美浜町教育委員会・網野町教育委員会・加悦町教育委員会・福知山市教育委員会・(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・京都府京都文化博物館・(財)向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・(財)長岡京市埋蔵文化財センター・宇治市教育委員会・宇治市歴史資料館・田辺町教育委員会・精華町教育委員会・山城町教育委員会・京都府教育委員会。
4. 本図録は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第1課と京都府立山城郷土資料館が分担して作成した。



第13回 小さな展覧会 発行日／1995年8月12日

編集・発行／財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617 向日市寺戸町南垣内40-3 TEL.075-933-3877

印刷／三星商事印刷株式会社

主催 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

後援 京都府教育委員会

協賛 向日市文化資料館

